



うもれ木

魚津埋没林博物館広報誌

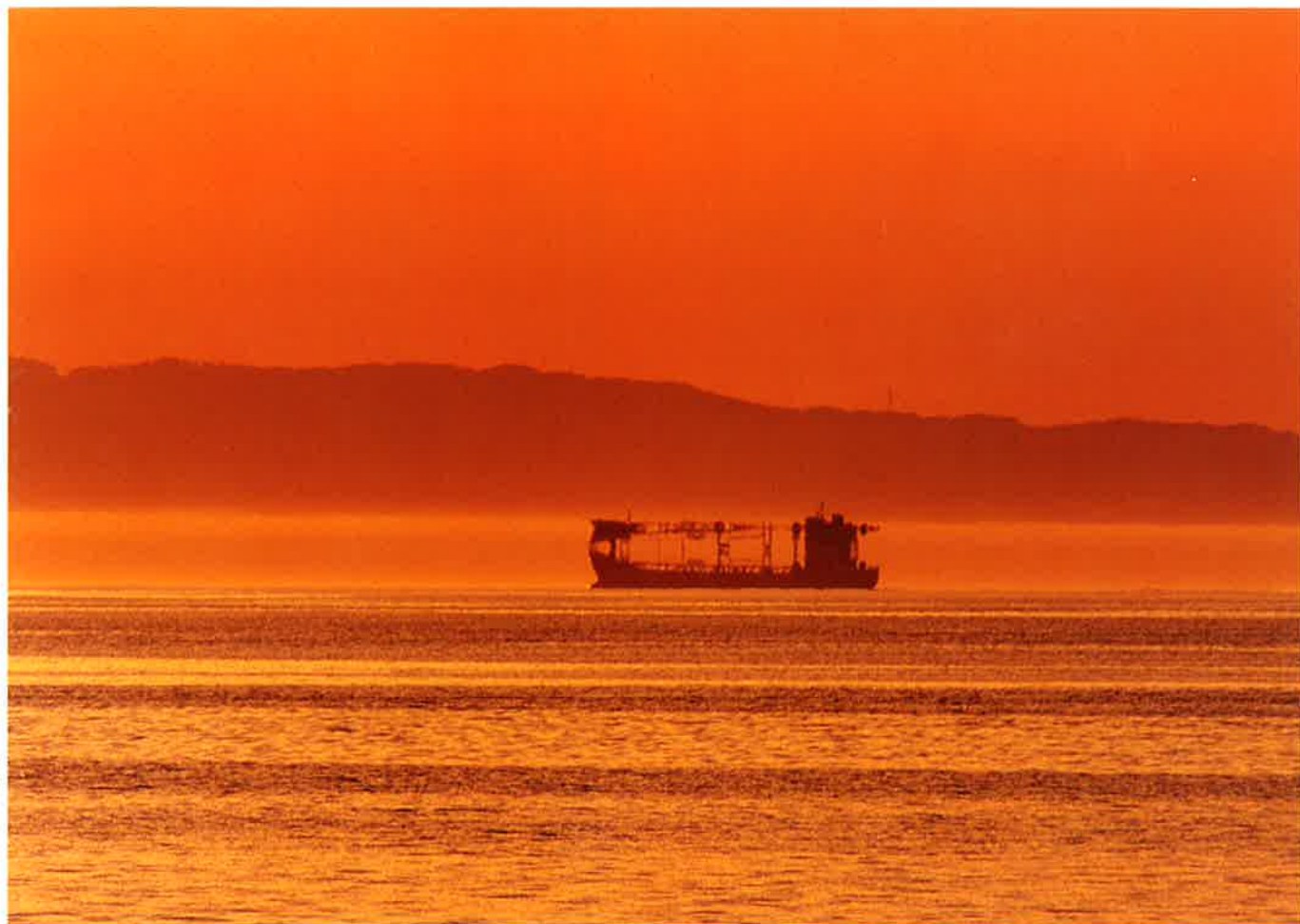
第24号

発行日：平成18年3月31日

編集発行：魚津埋没林博物館

印刷：魚津印刷（株）

夕映えに 船ゆらり



2005年5月20日の夕暮れ時。富山湾上を航行する船が、蜃気楼によって伸び上がった背中合わせの反転像を見せたりしながらゆっくりと通過していきました。この日は、富山市から新湊市、そして能登半島まで、双眼鏡を使わなくても観察できるほどの素晴らしい蜃気楼に恵まれた日でした。

さて、今年の蜃気楼はどうでしょうか…？



新湊市方面の蜃気楼

蜃気楼の 傾向と対策？

学芸員 石須秀知

蜃気楼の見える街、魚津では、3月の半ばになるとなんだかそわそわした空気が感じられます。最初の蜃気楼はいつ見られるかな？今年は何回ぐらい現れるかな？素晴らしいのが出るかな？・・・

魚津埋没林博物館では、平成4(1992)年4月から、蜃気楼の観測をしています。(ここでいう蜃気楼とは、実像の上側に虚像が現れる“上位蜃気楼”を指します。)表1は、平成4年から平成17年までの蜃気楼の観測回数をまとめたもの、図1と図2は、年別、月別の観測回数をそれぞれグラフで表したものです。蜃気楼の発生回数は、平均では年に10～11回ですが、年によってかなり異なり、20回以上観測された年もあれば、4回しか観測できなかった年もあります。月別では、5月が最も多く、次いで4月に多く観測されています。この2ヵ月間で全体の7割以上を占めています。そして、その前後の3月と6月を合わせれば、9割以上になります。蜃気楼のシーズンは、暖くなる3月下旬から梅雨に入る6月ごろまでということができそうです。ただし、7月から10月

表1 年・月別上位蜃気楼観測回数

年	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
平成4年	0	3	1	1	0	0	0	0	5
平成5年	0	1	4	1	0	1	0	0	7
平成6年	0	5	7	0	0	0	0	0	12
平成7年	0	4	5	1	1	0	0	0	11
平成8年	0	7	3	3	0	0	0	0	13
平成9年	0	1	2	1	2	1	0	0	7
平成10年	0	6	5	2	0	0	0	1	14
平成11年	5	4	6	4	0	0	3	1	23
平成12年	0	0	3	1	0	0	0	0	4
平成13年	1	7	9	1	1	0	0	0	19
平成14年	1	3	1	2	0	0	0	0	7
平成15年	0	3	5	1	0	0	0	0	9
平成16年	2	2	4	2	0	0	0	0	10
平成17年	0	3	3	2	1	1	0	0	10
計	9	49	58	22	5	3	3	2	151
平均	0.6	3.5	4.1	1.6	0.4	0.2	0.2	0.1	10.8
比率(%)	5.96	32.5	38.4	14.6	3.31	1.99	1.99	1.32	100

までの間にも、気象条件によっては発生する可能性があるということも、覚えておきましょう。

さて、では今年(平成18年)はどうなるのかが気になるところです。ちょうど、この原稿を書いている途中の3月11日に初回の蜃気楼が観測されました。博物館で観測した例としては、最も早い初回観測です。初回の観測日

図1 年別上位蜃気楼観測回数

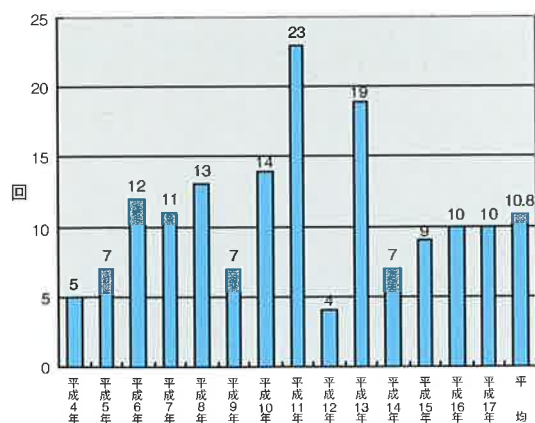
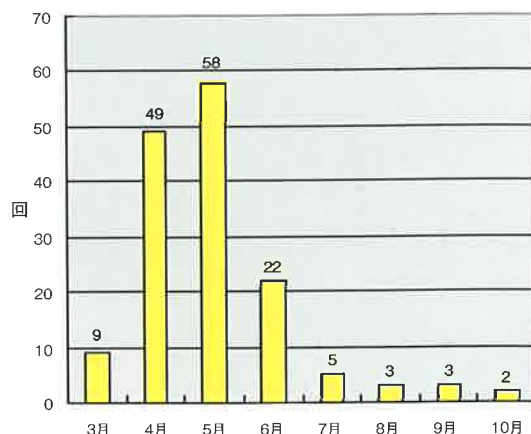


図2 月別上位蜃気楼観測回数



が早いということは、それだけシーズンが長くなると考えられるので、全体の回数も多くなるのでは、と期待させます。そこで、各年に蜃気楼を初めて観測した日と、シーズン中の観測回数の比較を表2と図3にまとめてみました。大まかな傾向としては、初回の観測が早い年ほど、蜃気楼の観測回数は多くなると言えるようです。しかし、平成8年のように初回が平均より遅くても、回数が平均を上回った年や、逆に平成14年のように平均より早い初回でも、回数が平均以下の年もあり、あまりあてにできるものでもないようです。

蜃気楼の発生には、おもに気温と風が大きな影響を与えます。魚津では、朝は比較的気温が低く、日中に急激に暖くなるような日で、最高 - 最低の温度差が10~15℃ぐらい、そして海岸では北北東から微風が流れ込むような日に蜃気楼が発生しやすいとされています。このような気温や風の条件は、富山湾とそれをとりかこむ陸地という限られた地域の気象ですが、それを支配するのは、日本列島



富山市岩瀬方面の蜃気楼

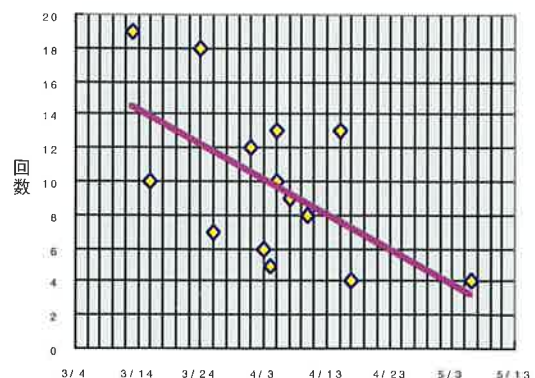
付近の気圧配置など、より大きな要因です。蜃気楼に好適な気圧配置として、移動性の高気圧が本州を通過し、東側から緩やかに日本を覆うような形が知られています。さらに、このような気圧配置が現れやすいかどうかは、大陸や海の温度、偏西風の蛇行など、地球規模の気候が影響することもあると考えられます。それらの要因によって、高気圧の通り道が南や北に偏ったり、寒気が入って気温が上がりにくかったりして、蜃気楼の回数に影響を与える場合があります。

蜃気楼は、地球の大きさから見れば、非常に小さな地域で起きる気象現象です。しかし、それを予測するには、地球規模の大きな視点も必要なのかもしれません。

表2 初回観測日と観測回数

年	初回日	3~6月回数	全回数
平成4年	4/4	5	5
平成5年	4/3	6	7
平成6年	4/1	12	12
平成7年	4/5	10	11
平成8年	4/15	13	13
平成9年	4/17	4	7
平成10年	4/5	13	14
平成11年	3/13	19	23
平成12年	5/6	4	4
平成13年	3/24	18	19
平成14年	3/26	7	7
平成15年	4/7	9	9
平成16年	3/16	10	10
平成17年	4/10	8	10
平成18年	3/11	?	?
平均	4/4	9.9	10.8

図3 初回日とシーズン中の観測回数



シリーズ

埋没林の仲間たち ②③

スイレン科とコウホネ属

スイレンには多くの園芸品種があり、庭園の池などによく栽培されています。日本に自生するスイレンの仲間に、ヒツジグサがあります。ヒツジグサは、古いため池などに生育し、白い花を咲かせます。その名は、未(ひつじ)の刻＝午後2時ごろに花が開くことからつけられたと言われていますが、実際はそれほど正確に時刻に対応しているわけではないようです。



ヒツジグサ

スイレン科には、ヒツジグサなどが属するスイレン属のほか、オニバス属やコウホネ属などがあります。

コウホネは、池や沼、水路などに生え、黄色

い花を咲かせます。白く太い根茎が骨のように見えるため“河骨”の名がついたとされています。水面の上に出た葉はやや立ち上がり、スイレンの葉を大きく長く引き伸ばしたような形をしています。



コウホネ

* * *

現在の魚津市内では、スイレン科の植物の確実な生育地は明らかになっていません。

魚津埋没林では、平成元年の発掘調査で、コウホネ属と、種類未詳のスイレン科の花粉が検出されています。埋没林の生育当時には、周囲に湧水があったと考えられているので、ヒツジグサやコウホネが生育していたかもしれません。

お知らせ

●平成18年度の行事予定

☆企画展示

- 蜃気楼写真展 ————— 5月1日(月)～6月30日(金)
- 海のある写真展 ————— 7月1日(土)～7月31日(月)
- 地面に生えない植物 ————— 8月1日(火)～10月31日(火)
- 魚津ナチュラルギャラリー⑦ 1月2日(火)～4月30日(月)

※企画展、学習会の詳細は下記までお問い合わせください。

☆ふれあい学習会

- 食べられる草ど～れだ? ————— 4月22日(土)
- 四つ葉のクローバー見つけた ——— 5月27日(土)
- 自由研究相談室 ————— 8月26日(土)
- 魚津の海岸まるごとウォーク ——— 9月16日(土)
- もみじで楽しく葉書づくり ——— 10月28日(土)
- つるつるつくる ————— 11月25日(土)
- 冬の蜃気楼ウォッチング ————— 2月18日(日)

ご利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)
- 休館日 12月～3月の月曜日、祝日の翌日、年末年始(4月～11月無休)
- 入館料 ・大人(高校生以上)・・・510円 ・小中学生・・・250円
- 交通 ・JR北陸本線魚津駅 } 下車1.5km (タクシー・・・5分)
- ・富山地方鉄道 新魚津駅 } (徒歩・・・25分)
- ・北陸自動車道魚津ICから3km車で10分

特別天然記念物 魚津埋没林博物館

〒937-0067 富山県魚津市釈迦堂8141 (0765) 22-1049
 ホームページ <http://www.city.uozu.toyama.jp/nekkolnd/>
 e-mail nekkolnd@city.uozu.toyama.jp/

